2011 年 8 月 4 日

在日米陸軍・第 1 軍団前方司令部
マイケル・ハリソン司令官　殿

神奈川平和運動センター
代表　宇野峰雪

原子力空母の母港化に反対し基地のない神奈川をめざす県央共闘会議
代表　岡本聖哉

任務指揮訓練センターの開所の中止を求めます（要請と抗議）

本日、任務指揮訓練センター（旧称、戦闘指揮訓練センター）の開所式が行われるとのことですが、私達はこの開所式に抗議すべく、ここ相模総合補給廠を訪れました。

2007 年 12 月、第1軍団前方司令部がキャンプ座間で発足しました。しかし、当初予定されていた 300 人規模にはほど遠く、要員は兼務も含めても数十人と聞いています。第1軍団前方司令部の移駐そのものが不要だった証拠とは言えないでしょうか。

ですから、本日、同司令部の支援施設として任務指揮訓練センターが開所されようとしていることに、私達は強い疑念と憤りを感じています。

貴方が赴任する前の数年間、キャンプ座間および相模総合補給廠を抱える座間、相模原両市は第1軍団司令部の移駐など基地強化を図る「米軍再編計画」に翻弄されて続けてきました。日米両政府は地元市の意見、意向に耳を傾けず、基地再編計画を決めました。日米両政府の強引なやり方と再編交付金、まさにアメとムチの策によって、座間、相模原両市は日米合意を受け入れることを余儀なくされてしまいました。しかし、両市とも決して基地強化の動きを歓迎しているわけではありません。

「基地の下で 70 年。もう我慢の限界。黙っていると 100 年先も基地の街」。これは日米両政府が米軍再編を進める中、相模原市が市民に呼びかけたスローガンです。1930 年代後半、日本軍国主義時代に強制的に接収され、1945 年に貴軍に引き継がれて 66 年、座間、相模原両市は基地による被害、迷惑を被り続けてきました。街の分断、交通の遮断、汚染水の垂れ流し、油漏れ、有害廃棄物のずさん処理、ヘリコプター騒音、ゴルフボールの飛び出し等々。加えて、フェンス一枚を隔てただけ、その外と内は全くの別世界です。貴方たちは不合理なまでの日米両住民間の格差をもっと知るべきです。

それだけではありません。ベトナム戦争の時代には、相模総合補給廠から修理・再生された戦闘車両が大量に運ばれ、ベトナム人民殺戮の用に供されたこともあります。その後も湾岸戦争、アフガン戦争に軍事物資・機材を送り出すという、戦場と直結する役割を果たしています。平和を願う私達は、キャンプ座間と相模総合補給廠のこうした動きを見過ごすことはできません。

本年 3 月 11 日に「東北地方・太平洋沖地震」が発生しました。貴方たちも「トモダチ作戦」に加わり、被災地の復旧、被災者の救援に当たりました。未曾有の大震災に貴方たちが救援の手を差し伸べたことには感謝いたしますが、7月17日に相模原市の職員に示した、「任務指揮訓練センターは災害支援にも役立つ」との主張は、基地強化の動きを合理化するもので、決して認めることはできません。「東日本大震災」で被災された何万何十万人の人々を盾に、同センターの有用性を説くのは卑怯と言わざるを得ません。

貴方たちは当初、「戦車や装甲車、実戦部隊が配備されるわけではない、だから心配無用」と言いました。しかし、戦闘指揮のシミュレーション訓練を行う施設をつくったり、訓練支援センターをつくったりすることは、戦争の準備そのものではありませんか。そして、今また戦術機器整備施設という新たな施設の建設計画が明らかとなりました。60 余年も居座った上に、相次いで新たな施設を建設しようとしています。これらは基地の強化・恒久化以外の何物でもありません。もう甘い言葉で市民を欺すのはやめて下さい。

貴方たちが本当に市民レベルの日米友好親善を望むのなら、基地の強化・恒久化の策をやめるべきです。私たちはここに、新たな施設建設の中止を求めるとともに、任務指揮訓練センターの開所の中止を強く求めます。　●